



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

## 掲示板法話

### 温かい言葉、真の言葉に遇えば 居場所が再発見される

いよいよ師走。「光陰矢の如し」という思い、ひとしおです。振り返って随分災害の多い年でした。年の初めに災害で家屋が流出したり、損傷を受けたり、身内や自分が命終えねばならないと予想した人はいないでしょう。事故、事件に巻き込まれることなど、当然予測不可能です。それほどに我々は諸行無常の世に生きているのだ、と思知らされます。

だが昨今、若い世代(15歳から29歳)の死亡原因のトップが自殺だと驚きです。若者たちがそれほどに傷つきやすく、息苦しい背景に何があるのか?たとえ深い悩みの底に沈むことがあるとしても、親身に寄り添い、悩みを共にする間柄があれば、SNSの自殺サイトにアクセスすることにならずに済むはずだろうと思えますが・・・。「死にたい。一緒に死んで」というツイッターなどの書き込みから、とんでもない者に殺されるといふ残酷非道な事件まで起きました。痛ましいことです。



がました。「死んだら苦しみから逃れられる」などと自分の居場所を見失っている人を闇から救い出すのは簡単なことではありません。でも温かい言葉、裏表のない言葉に出会えば闇から光に遇うことがあるのです。

奈良少年刑務所の詩集『空が青いから白を選んだのです』(寮美千子編)の中に「ごめんなさい」という詩がありました。

あなたを裏切って  
泣かせてしまったのに  
あなたは僕に謝った  
アクリル板越しに ごめんねと  
悪いのは この僕なのに  
あの日の泣き顔が忘れられない  
ごめんなさい かあさん

この詩を書いた少年は、母の悲しむ姿の中に、自分の犯した罪の深さを知りました。息子の罪は「この母が悪いのだよ」と泣いた母親のやるせない姿の中に少年は深い慈悲の心に遇ったのでしよう。無条件に許される言葉に触れて、かたくなに閉ざされていた少年の心が解きほぐされたのでした。

## 写真アラカルト・報恩講

「ごめんね」「ごめんなさい」と言葉が呼応すれば、闇の底から光に遇い、無条件の居場所が再発見されるのです。「救いとは無条件の居場所が与えられる」ということです。

仏恩を知り、多くのお蔭を知らされ、心新たに来年を迎えましょう。



## ☆行事ご案内

### ◇お内仏報恩講 音楽法要

12月2日(土) 午前10時半 庫裏

昨年より夜から昼間開催、昨年より30分早め。  
時間をお間違いないように!温かいぜんざいと昼食用意。  
例年30人から40人が参詣。お誘い合わせてお参り下さい。

◇秋勤進11月23日(祝・木)午前8時より行事さん、総代さん、住職が手分けして巡回、皆様のご協力よろしくお願ひします!

◇一縁会テレホン法話 Ⅸ 059-354-1454 三重組有志の僧侶・坊守、若院が週替わりで3分法話、是非お電話下さい

(ご案内) ◇除夜の鐘 12月31日大晦日夜11時45分より。どなたでも撞けます。子供達にはお菓子用意。

◇『元旦会』1月1日午前9時より本堂で正信偈、住職新春法話、庫裏でおせちを囲んで年始座談。新年のスタートはお寺から!

◇初参式の赤ちゃん幼児募集! 来年4月21日(土)午後1時善正寺三全仏婦主催、参加費千円、地域で子供の誕生と成長を祝福

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。  
毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸9年4か月で25万4千訪問、一日平均80人~90人、悩み相談、大歓迎! 即返信

◇絵手紙教室 12月12日(火)午前10時27回目川崎光子先生

◇キッズサンガ12月9日(土)4時鐘撞き夕方5時、年中無休

◇新納骨堂: 後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事の場所でお困りの方; 本堂使用可。寺にご相談下さい。

### 坊守スケッチ

## 孤独の闇に付け込む凶悪犯罪

背筋が凍りつくような類稀な事件が起こった。神奈川県座間市のアパートの一室で9人の若い男女が殺害された。「一緒に死んでくれる人募集」のツイッター書き込みで、言葉巧みに近づいた容疑者。年齢、性別、職業を問わずに誰とでも容易に繋がるSNS。共有された情報は孤独や疎外感を和らげるのに便利。おまけに匿名性の心地よさ。しかしそこに意外な落とし穴がある。被害者もそれにはまった。もし兄が必死に探さなかったら、10人目の犠牲者が出る可能性もあった。いずれにしても肉親や友達にも相談できない孤独の闇とは、何なのだろうか？目に見える相手には心を打ち明けられないのに、会ったこともない相手を簡単に信じてしまう矛盾。普段は目に見えない仏様の話など見向きもしないのに、SNSには心許すのだろうか？この事件は、現代人が抱える心の闇と矛盾点を提示してくれた。

若者ばかりではない。高齢者でもこの落とし穴に容易にはまる。あれほど注意喚起をしても一向に減らない振り込め詐欺。要するに親身になって相談する相手が身近にいないのだ。しばしの気晴らし相手はいても、心底悩みを聞いてくれる人がいないのだ。

老いも若きも、孤独の闇に付け込む犯罪に巻き込まれる事件が増加中だ。

見方を変えれば、身近に接する家族や友人、ご近所、職場などの人間関係が希薄になって、孤独を和らげる場所が少なくなった。心を鍛練する場所もない。ネットいじめも深刻化している。お寺の門をくぐるのは死んでからでは遅い。心底悩みを打ち明け、安心して相談できる場所として、お寺を選んで欲しい。孤独な人々の悩みの受け皿になれるような坊守になりたい。

### カンパありがとう！

荒木様、閑崎様、栗本様、川崎様他匿名様よりお志、切手等頂戴。感謝！

### 寄稿

四日市市・釋清風

- ・報恩の 姿薫るや 菊日和
- ・いわし雲 茜に染まり 家路かな
- ・時越えて 大集合の 秋法会
- ・遙けくも 生かされ七十路 冬来る
- ・父母の 往時偲ぶる 秋夕焼



### ☆若院夫婦の『育自な毎日』その36

秋はイベントが目白押し。10月のファミリーコンサートに始まり、運動会、長女の誕生日、11月は報恩講、文化祭など。ファミリーコンサートは先月号でも触れたので、まずは運動会。長男亮爾(5)にとつて幼稚園最後の運動会。年長さんは出番が多く、親もビデオ撮影に必死。そんな中、長男はきびきびとした演技で三年間の成長ぶり感じました。特に感動したのは、剣道の「少年剣士」。道着を身に着け、掛け声と共に竹刀を振り下ろす凛々しい姿。私はPTA役員として大勢の仲間と共に行事をサポートしました。10月27日は長女・紗恵の3歳の誕生日でケーキを用意。でも一番喜んだのは食欲旺盛で元気な長男でした。報恩講では嬉しい出来事がありました。泊りがけで埼玉よりお越しのKさんご夫妻には、私達親子が感激する場面が多々ありました。特に、長女と一緒に正信偈を勤めて下さったこと。その模様を後日「紗恵ちゃん」の報恩講ものがたり」として全てひらがなで書いて送って頂きました。私が本堂に遅れて着席した時には、長女はK夫人の隣にちよこんと腰掛け、手に念珠をかけていました。家族と離れて最後までお参りできました。幼児にも慕われるK夫人のお人柄とお導きに感謝です。報恩講の翌日から二日間は、地区文化祭と幼稚園文化祭が続きました。長男はそこで日舞を披露。次の日は「お

店屋さん」の模擬店を楽しみました。これらの思い出の積み重ねが、家族の歴史を紡いでいくのですね。(若坊守)

### お知らせ

◇「秋勸進」11月23日(祝・木) 午前8時より。在所は行事さん、住宅地は世話方と住職が手分けして巡回。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

◇「お内仏報恩講」12月2日(土) 午前10時半より。庫裏にて。昨年より夜の開催から昼間の開催に変更になりました。夜間の外出を控える声が多く寄せられました。その日は朝、老人会の墓掃除があります。充分間に合う時間ですので、お誘い合わせしてお参り下さい。温かいぜんざいや昼食をご用意します。

◇「お礼」今年の報恩講には、遠近各地より多数お参り頂き厚くお礼申し上げます。埼玉より泊りがけのご夫妻、津より8名、趣味仲間を誘い合わせて6名、散歩連れ等。初日は特に満堂。手作りのお非時も女性スタッフのご協力でご好評。来年への励みになります。

### ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第二百八十八号をお届けします。◇災害も多かったが恐ろしい事件も頻発。言葉の通じない地獄のような社会現象に戦慄を覚える。自殺願望の人たちは現状をリセットしたいのだと解釈すれば防ぐ手立てはある。人間らしい言葉の回復こそ鍵。◇遠路はるばるお参りの尊いお姿に学んだ報恩の秋。本年の御芳情唯感謝。

日常生活でスマホは欠かせないものとなりました。電車内でも歩いていても食事中でも手放せません目の前にいる人と会話するよりも見えない相手と会話するのを楽しみます。そこには意外な落とし穴があります。スマホは要件を伝える道具としては便利ですが相手の微妙な心や顔色を読みとれません。我が家で夕方5時の鐘つき後孫達とお参りするのが日課。またキッズサカでもおやつタイムには必ず合掌して食前、食後の言葉。その時自然と子供の口からお念仏が出ます。先日奈良の石川先生のご法話で「言葉が通じない世界が地獄。言葉が無くしては生きていけない世界が人間。しかし今その言葉がなおざりにされている。呼べど応えすの総失語症時代。SNSには響きがない。仏様のみ言葉は、道具としての言葉ではなく末通りたる響きことなして生き抜く力を与えて下さる。お念仏を通して必ず救う。任せよ」といふ仏様の喚びをしっかりと受け取りたいとお説き下さいました。「たつた一言で愛が生まれたたつた一言で人を殺す」人の心は傷つき易いのです。言葉の救いは生きる糧。一言の重みを感じとれる私になりたいと思います。限りある人生、言葉の救いを見つめる為に聴聞を重ねましょう。ところでお内仏報恩講が12月の第一土曜の夜から昼間に変更して2年目です。今年も12月2日(土)午前10時半より庫裡で開催。ぜんまいや昼食を用意し、師走のお忙しい時期ですが皆林お誘い合わせてお参り下さいませ。合掌

平成二十九年十二月

善正寺坊守 拝